

廿日市市の文芸碑拓本

たかにわのうまやあと の おえきあと
高庭駅家跡 / 濃喉駅跡

たかぼたけ
(大野高畑 一畑薬師堂前)

中世五人兄弟の「大野次郎住居跡」の土井から乾（いぬい）の方向（北西）の小山に大野五兄弟の次郎が祀られている「新宮神社」があり、その下の西国街道を西に進むと天平時代（729年）古代山陽道の「駅家（うまや）」が置かれていたという高庭駅家跡、のちに濃喉駅跡がある。

高庭駅家跡顕彰歌碑によれば、

（中略）「天平3年（731）6月17日九州の一青年大伴熊凝（おおとものくまこり）が国人の供人となって都にのぼる途中この地で病気にかかり十八歳の若い身で遠く家郷の父母を慕い歎き悲しみながら死去したがこれを本人に代わってその気持ちを時の筑前の国司山上憶良（やまのうえのおくら）が歌に作ったもので日本最古の歌集「萬葉集」に載っている歌の一首である」

出で行きし
日を数えつゝ
今日今日と
吾を待たすらむ
父母らほも



山上 憶良（やまのうえ の おくら、(齊明天皇 6 年(660 年)? - 天平 5 年(733 年)?）は、奈良時代初期の柿本人麻呂や山部赤人など代表的な万葉歌人の一人で、宮廷詩人の人麻呂や自然を歌った赤人に対し、祖国百済が新羅に征服され祖国を失う形で4歳の時日本にやって来た百済の渡来人である山上憶良は多く民衆の心を歌った歌人である。当時の遣唐使はまさに命懸け、帰ってくれば出世は間違いなしという時代、第7次遣唐使の小録に任命され、702年42歳の時に遣唐使の下級官吏に選ばれる。帰国後それまでの不遇から出世を重ね、姓は臣、官位は従五位下に叙される。筑前守。

奈良・平安時代は天皇を中心とした大和王権が「律(りつ)」「令(りょう)」「行政法」という法律に基づいて人民を支配する制度がつけられており律令体制を全国に徹底させるため、地方の行政制度を整備すると共に、政令の伝達や政府への報告を速やかに行うため、交通制度の整備にも力を入れた。交通網の整備は、政府の置かれた大和を起点として、京と諸国を結ぶ7

つの幹線道路(北陸道・東山道・東海道・山陰道・山陽道・南海道・西海道)を中心に進められた。

幹線道路には、京と地方を往来する駅使(公の使者)らに馬や食糧を提供する「駅(うまや)」を30里(約16km)ごとに設け、道路の重要度に応じた数の駅馬を各駅に配置した。駅馬の飼育や駅使に提供する食糧の確保など、駅の運営にかかる経費は、各駅に与えられた駅田の耕作によって賄われ、労働力は駅周辺の駅家村(駅の仕事に従事する集団)から集められた駅子がこれにあたり、これらの人員をまとめ、駅を運営していく責任者はその地の有力者が任命され、駅長と呼ばれた。

古代、全国の道は大・中・小路に格付けされ、当時、国内最重要路線だった中央と大宰府を結ぶ山陽道と西海道の一部が大路、中央と東国を結ぶ東海道・東山道が中路、それ以外が小路とされており山陽道は唯一の大路であった。そこに配置された駅家は単に馬の乗り継ぎ駅としてだけでなく、迎賓機能なども備えていた。駅家に置く馬(駅馬 はいま)は、大路で20疋、中路で10疋、小路で5疋と定められており、使者が駅馬を利用するには、駅鈴(えきれい…官吏の公務出張の際に、朝廷より支給された鈴)が交付されている必要があった。官吏は駅において、この鈴を鳴らして駅子(えきし…人足)と駅馬(はいま)または駅舟(えきしゅう)を徴発させた。駅では、官吏1人に対して駅馬1疋を給し駅子2人を従わせ、うち1人が駅鈴を持って馬を引き、もう1人は、官吏と駅馬の警護をした。

あきのくに

安芸国の古代山陽道は13駅

- 真良(しんら、沼田郡) 駅馬数20疋 三原市高坂町真良
- 梨葉(なしわ、沼田郡) 20疋 三原市本郷町
- 都宇・津宇(つう、沼田郡) 20疋 (『倭名類聚抄』に「沼田七郷」として今有・沼田・船木・安直・真良・梨葉・津宇)
- 鹿附(かむつき、沼田郡) 20疋
- 木綿(ゆう、賀茂郡) 20疋 東広島市西条地区
- 大山(賀茂郡) 20疋 東広島市八本松地区
- 荒山(安芸郡) 20疋 広島市安芸区中野東地区
- 安芸(安芸郡) 20疋 安芸郡府中町城ヶ丘 下岡田遺跡
- 伴部(佐伯郡) 20疋 広島市安佐南区伴地区
- 大町(佐伯郡) 20疋 広島市佐伯区利松地区周辺
- 種篋(へら、佐伯郡) 20疋 廿日市市下平良地区
- 濃畷(のお・おおの、佐伯郡) 20疋 廿日市市大野高畑地区 (『万葉集』高庭馬家(たかにわのうまや)跡)
- 遠管(おくだ、佐伯郡) 20疋 大竹市

『養老令』の中に、「凡そ地を度(はか)らんに5尺を歩となす。300歩を里となす」とあり、1尺がおよそ35.3cmである。

1歩=5尺=35.3cm x 5=176.5cm、1里=300歩=176.5cm x 300=529m。

30里=529m x 30=15.885kmとなり、およそ16kmというわけである。

